

「現地を訪問して想うこと」

1979年卒業 産業社会学部 半田 優
(福島県会津東山温泉コース)

会津活・活自然村の訪問では、お店の方々が温かく迎えてくださり、かつ親切丁寧にご説明をいただいた。その中で、学校給食への野菜の出荷で、教育委員会と揉めているというお話があった。想像するに、野菜の大きさなど基準的な問題もあろうが、放射能汚染といった福島産の野菜に対する見方や不信など風評的な問題が存在するであろうと思う。つまり、放射能に汚染されているかも知れないという野菜を、わが子の口に入れたくないという保護者の不信や思いがあるのだ。

私の勤める山形県の小学校は、東京電力福島第一原子力発電所からおよそ80キロメートル離れているが、昨年保護者から、「屋外プールでの水泳授業は安全なのか。」「この時期、素足素手で田んぼに入らせることは、いかがなものか。」等々多くの問い合わせなどがあった。もちろん、その都度関係機関に連絡をとり、安全性を確認した上で、実施はしているが、放射線に対する意識や不安は強い。この未曾有の災害を目の当たりにして、子供たちに伝えなければならないことは何か、社会や政治が果たしていかなければならないことは何かなど、子どもたちの未来に向けて誠実に取り組んでいかなければならない。

最後に、復興に向けたくましく生きている校友の被災者の皆さんに強いエールを送り、復興支援事業を企画していただいた立命館大学に感謝し、我が母校に誇りを持ちたい。